

令和8年度

学校だより

～さつきが丘小学校 35周年 おめでとう!～

令和8年6月1日

第393号



さつきが丘 6月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/satsukigaoka>



「つながりで育つ、自己有用感」

副校長 八田 弘美

若葉の緑がいっそう鮮やかに輝く季節となりました。校庭には子どもたちの元気な声が響き、教室や廊下でも、友達と関わり合いながら、生き生きと学校生活を送る姿が見られます。朝の挨拶の声、学習に向かう真剣なまなざし、休み時間の明るい笑顔、その一つ一つに、子どもたちの日々の成長を感じます。新年度が始まり学校やクラスにも慣れ、周りの様子が分かってきた6月。自分の成長に気づき、自信をもって学校生活を送ってほしいと思っています。

「自分に価値がある」と思えるようにするためには、「自分の良さ（魅力）は○○です。」と自然に言えたり、「人の役に立ちたい!」「人の役に立った!」という気持ちを持てたりすることが大切だと考えます。では、そのような気持ちを育てていくには、何が必要なのでしょうか。他者や集団とのつながりの中で、自分の存在を価値のあるものとして受け止める感覚を“自己有用感”と言います。

- 自分は価値のある存在である
- 自分は人の役に立っている
- 自分の行動や存在を認められている

という感覚を高めていくためには、「子どもをよく見て良さに気づき、褒める」「子どもの話をじっくり聞いたり、話しかけたりする」「活躍の場を与えて、見守り、やり遂げられるようにして達成感を味わえるようにする」ことなどが大切になります。子どもたちの良さ（魅力）を見つけたら言葉や態度で、認めることがとても重要です。自分を認めてもらっていることが感じられれば、期待に応えたいという意欲が出てくるのではないのでしょうか。学校においてもこのことを意識して教育活動を進めていきたいと思えます。

人は一人だけでは、“自己有用感”をもつことはできません。様々な「つながり」を通して、自信を持ったり、人の役に立てることに喜びを感じたりしていきます。学校生活の中で、家庭の中で、地域の中で、そして、社会の中で、まわりのいろいろな人たちと「つながり」ながら、「自分は価値や魅力のある人間である」と思える子どもたちを育てていきたいと思えます。

